



Japan Society of Internship
and Work Integrated Learning

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER

2022 年度 NO.2

■目次

- ・第 24 回大会開催に向けて
- ・理事会報告
- ・年報編集委員会報告
- ・広報委員会報告
- ・学会表彰委員会報告
- ・企画研究委員会報告
- ・選挙管理委員会からのお知らせ
- ・支部活動報告
(北海道支部、東日本支部、関西支部、九州支部)
- ・事務局からのお知らせ
- ・会員情報 (2022 年 11 月～2023 年 5 月)

第 24 回大会開催に向けて

インターンシップは、1997年の三省合意を契機に、中央教育審議会答申や文部科学省の政策に影響を受けながら、日本の高等教育においても普及・浸透してきました。しかし、採用と大学教育の未来に関する産学協議会・2020年度報告書（以下、産学協議会報告書）、2022年6月の文部科学省・厚生労働省・経済産業省の三省合意改正等を受け、これまでのインターンシップは、学生のキャリア形成支援における産学協働の取組として4類型に再定義されました。さらに、インターンシップと呼称可能な取組の要件も定義されました。この三省合意改正等により、インターンシップの実施現場では大きな転換期を迎えようとしている、と言っても過言ではありません。

そこで、第24回大会のテーマは「原点回帰。今改めてインターンシップを考える。」といたしました。これまでのインターンシップについて、位置づけや政策の変遷から振り返ってみると共に、現在インターンシップに関わっておられるそれぞれの立場から“これまで”をご報告いただき、今改めてインターンシップとは何かを探究すると共に、インターンシップのこれまでと、産学協働のキャリア形成支援の取組のこれからを、共に考えたいと存じます。

関西支部の担当となる第24回大会は、3年ぶりに完全対面にて2日間で開催することになりました。準備や当日の運営に関して、ご不便やご迷惑をおかけすることが多々あるかと存じます。会員の皆様にとって新たな知の創造の場になるよう、大会実行委員会一同、精一杯準備を進めております。運営に際しては、何とぞご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

<第 24 回大会概要>

第 24 回大会 web サイト

(<https://jsi2023-otemon.site/>)

- 開催日：2023 年 9 月 16 日(土)、17 日(日)
- 開催担当校：追手門学院大学 茨木総持寺キャンパス (大阪府茨木市太田東芝町 1 番 1 号)
- 開催形式：1 日目・2 日目ともに対面方式



■主なスケジュール (予定)

1 日目：9 月 16 日 (土) 10:00～17:45

- ・学会表彰委員会「高良記念研究助成報告・楨本記念賞発表」
- ・基調講演 「インターンシップのこれまでー政策の変遷を概観するー」
- ・シンポジウム 「インターンシップのこれからーそれぞれの立場からの目的を踏まえてー」
- ・開催校企画
- ・懇親会

2 日目：9 月 17 日 (日) 10:00-14:45

- ・自由研究発表

※スケジュールは変更になる場合があります。

■大会参加申込

(早割) 2023 年 5 月 16 日 (火)～8 月 16 日 (水)

(一般) 2023 年 8 月 17 日 (木)～9 月 15 日 (金)

- ・第 24 回大会 web サイトの「大会申込参加」ページ、もしくは以下の大会参加申込サイトから参加申込・支払手続きをお願いします。クレジットカード・コンビニ・ATM が使えます。

▼Peatix (<https://jsi2023.peatix.com/>)

■研究発表申込

2023 年 5 月 16 日 (火)～6 月 26 日 (月)

- ・第 24 回大会 web サイトの「研究発表申込」ページ、もしくは以下の Web フォームから申込手続きをお願いします。

▼研究発表申込サイト(Microsoft Forms)

<https://forms.office.com/r/9gwjWU4LTv>

■懇親会参加申込

- ・4年ぶりの対面開催です。第24回大会 web サイトの「懇親会参加申込」ページをご確認のうえ、申込手続きをお願いします。

多くの会員の皆様からの研究発表とご参加をお待ち申し上げます。

(第 24 回大会 大会実行委員長 伊藤文男/
追手門学院大学)

理事会報告

2022年度 第4回理事会(2023年2月21日 * Web会議)

入退会の審査、第24回大会開催概要ならびにオンライン会費徴収システムの導入について協議しました。また、前回理事会の議事録、第23回大会の決算、理事選挙実施要領が報告・確認されました。さらに、各委員会・各支部・事務局より、活動状況が報告されました。協議の概要は次のとおりです。

(1)入退会の審査

事務局より、資料に基づき説明がなされた後、協議を行った結果、入会1件(個人会員)、退会3件(個人会員2件、法人会員1件)を承認した。これにより、本理事会承認後の会員数は230件(個人会員190名/学生会員5名/法人・団体会員35件)となることが確認された。加えて、例外的に4年目となっている長期滞納会員への対応が確認・報告された。

(2)第24回大会開催概要

伊藤文男実行委員長がオブザーバーとして理事会に出席し、資料に基づき大会概要が説明された。委員会組織、実施形態の案を協議した結果、実施形態については、対面での開催を原則として準備を進めることを承認した。また、委員会組織については、大会運営に関する大会校の責任や会員サービスという点からの開催の在り方等を新たな課題として今後検討していくこととした。

(3)オンライン会費徴収システムの導入について

事務局より、資料に基づき、オンライン会費徴収システムの導入にともなうメリットとデメリットの説明がなされ、審議の結果、2023年4月1日より、オンライン会費徴収システムを導入することを決定した。さらに、これに付随する事項として、業務委託先であるガリレオより提示された個人情報保全部管理費について、事務局より説明がなされ、吉本会長より、補足がなされた。審議をおこなった結果、金額の妥当性や非アクティブ会員の個人情報に関する管理について改めてガリレオに確認・交渉すること、交渉は事務局に一任することを決定した。

2022年度 第5回理事会(2023年5月14日 * Web会議)

入退会の審査、第24回大会開催準備状況ならびに高良記念研究助成、楨本記念賞募集について協議しました。また、前回理事会の議事録、理事選挙の実施について報告・確認されました。さらに、各委員会・各支部・事務局より、活動状況が報告されました。協議の概要は次のとおりです。

(1)入退会の審査

事務局より、資料に基づき説明がなされた後、協議を行った結果、入会3件(個人会員)、退会6件(個人会員6件)を承認した。これにより、本理事会承認後の会員数は233件(個人会員193名/学生

会員5名/法人・団体会員35件)となることが確認された。

(2)第24回大会準備状況

伊藤文男実行委員長がオブザーバーとして理事会に出席し、資料に基づき、大会概要やタイムスケジュールなどが説明された。2日間の開催で、開催形式は対面のみ、懇親会も開催することが報告された。また、会員年次総会のみオンラインと対面の併用で行い、その運営は本部事務局と連携・協議しながら進めることとなった。

(3)高良記念研究助成、楨本記念賞募集について

小林学会表彰委員長より、資料に基づき、2023年度第17回高良記念研究助成の概要ならびに募集について説明がなされ、審議の結果、承認された。続いて、楨本記念賞の概要ならびに募集について説明がなされた。秀逸なインターンシップの審査基準についての意見が出されていたが、今回まで従来の審査基準で実施することが提案され、審議の結果、承認された。ただし、楨本記念賞の募集方法については、支部のあり方にもかかわるため、今後は、支部推薦形式だけでなく、他の推薦も可能にする方法や、審査基準の見直しについても継続検討することが提案され、次の学会表彰委員会への引き続き事項とすることとなった。

(事務局)

年報編集委員会報告

『インターンシップ研究年報』第26号への投稿を2023年1月20日に締め切りました。第26号への投稿本数は「研究論文」が2件、「研究ノート」が1件、計3件でした。現在、2023年10月末の発行に向けて、研究論文の査読作業を進めています。

『インターンシップ研究年報』第27号への投稿受付は、2023年の12月から2024年1月中頃の期間を予定しています。投稿受付に先立ち、投稿規程の改訂について改めてお知らせします。具体的には、投稿原稿を「論文」「研究ノート」「資料」「事例紹介」に整理し、それぞれの要件を明示しました。これまで通り「論文」「研究ノート」は専門分野の会員による査読を経ての掲載(査読有り)、「資料」「事例紹介」は編集委員による原稿確認を経ての掲載(査読無し)となります。特に編集委員会では、「論文」「研究ノート」に限らず、会員の実践に参考となる「資料」「事例紹介」への多くの投稿をお待ちしています。

また、「論文」「研究ノート」「資料」「事例紹介」のすべてに共通することとして、投稿規程には、i. 他の学術雑誌に発表されたことがない、未発表のものであること。ii. 他誌へ投稿中の論文等または投稿する予定のある論文等でないこと(二重投稿の禁止)。iii. 研究倫理を遵守し、執筆すること。iv. 調査研究の場合は、調査対象者のプライバシーの保護を最大限尊重し、調査対象者が特定されないよう配慮するなど適切な予防策を講じること、等が明記さ

れていますので合わせてご確認ください。会員の皆さまの投稿をお待ちしています。

(年報編集委員長 古田 克利・立命館大学)

広報委員会報告

学会 web サイトリニューアルに向けて

広報委員会は学会情報を内外に発信し「インターンシップに係わる諸問題の研究の推進・普及、社会に対する啓発・提言」という役割を担い活動を行っております。ニューズレターやメルマガ配信などの通常の広報委員会業務に加えて、現在、学会 web サイトのリニューアル作業を実施中です。先日 5 月 8 日に新サーバーへの移行を実施しました。現状では見た目などはこれまでの Web サイトとほとんど変化ありませんが、何か不具合等が見つかりましたら広報委員会までご一報いただくと幸いです。

学会ウェブサイト・メルマガ配信について

広報委員会では本学会に寄せられた研究会やセミナー開催案内および教員公募等、会員の皆さまにとって有益な情報を学会ウェブサイトに掲載するほか、随時、メルマガで配信しております。本学会に関連する情報がございましたら、広報委員会までメールでご連絡ください (jsi.prc@gmail.com)。なお、最終的な掲載可否は広報委員会で検討させていただきますのでご了承ください。

会員情報更新・アドレス連絡について

ご異動等で会員情報が変更された場合（メールアドレスや所属など）には、学会ウェブサイトトップページの「会員情報照会・更新」アイコンから各自で情報更新をお願いいたします。大切なご案内等が届かないことにもなりますので、お早目に更新ください。

(広報委員会委員長 眞鍋和博・北九州市立大学)

学会表彰委員会報告

2023 年度（第 17 回）高良記念研究助成について

本学会では、2007 年度からインターンシップに係る研究・実践活動の発展・普及のため、特に若手研究者の育成や会員相互の研究交流の促進に向けて「高良記念研究助成」制度を設け、優れた研究課題への研究助成を行っております。2022 年度（第 16 回）は、1 件の応募があり、学会表彰委員会による審査を経て、桑畑夏生会員（宮崎大学）の「選択必修科目における実践型インターンシップ経験による教育効果の検証—宮崎大学地域資源創生学部「国内インターンシップ」の事例をもとに—」が採択されました。

2023 年度（第 17 回）の研究助成に関する応募期間や申請書類などの詳細につきましては、学会 Web サイトやメルマガにてお知らせいたします。多数の応募申請があることを期待してお待ち申し上げております。

げております。

第 5 回榎本記念賞について

榎本記念賞は、初代関西支部長を務められた榎本淳子氏（元・大阪経済大学教授）からのご寄付をもとに創設されたもので、インターンシップの発展と高度化を願い、「秀逸なインターンシップ」事例の収集を目的として、2 年に 1 回の表彰を行っております。

第 5 回榎本記念賞は、9 月に開催予定の第 24 回大会にて表彰式を実施する予定となっております。選考対象は、大学・短大、高専、専門・専修学校、中学校・高等学校等の取組みで、2022 年 6 月から 2023 年 5 月末までの 2 年間に各支部研究会ないし学会大会で発表された事例の中から、各支部より推薦をいただく予定です。スケジュールや評価項目などの詳細につきましては、学会 Web サイトにて掲載されております。

(学会表彰委員会委員長 小林 純・札幌国際大学 短期大学部)

企画研究委員会報告

今期の企画研究委員会では「「インターンシップ専門人材」(仮)の養成」をテーマに、国内外での状況を把握するとともに、その在り方（あるいは本学会としての関わり方）について検討を進めております。

このうち、本学会創設 25 周年記念事業準備のためのワーキンググループと合同で企画を進めております会員動向調査につきましては、2023 年に入って数度にわたって研究会合を開催してインテンシブに検討を積み重ね、この 3 月に「日本インターンシップ学会会員アンケート」として実施いたしました。回答へのご協力を戴きました会員のみなさまに、心より感謝申しあげます。結果の公表まで、今しばらくお時間をいただければと思います。

(企画研究委員会委員長 稲永 由紀・筑波大学)

選挙管理委員会からのお知らせ

理事選挙の実施について（選挙管理委員会報告）

2023 - 2024 年度の日本インターンシップ学会理事選挙を実施するにあたり、理事会より選挙管理委員会委員として椿明美、手嶋慎介、山口圭介(50 音順・敬称略)の各会員が委嘱され、また、選挙管理委員長に手嶋慎介が選任されました。これまでの 2 回の選挙管理委員会での審議ならびに理事会での承認・報告を踏まえ、理事選挙を実施いたします。

選挙に際し、被選挙人名簿・学会会則(抜粋)・理事選規程など、選挙に関する郵送物を 5 月末日までにお手元に届くよう準備を進めています。また、投票は、原則としてオンラインでおこなうものとしております(「5. 投票は無記名で行い、被選挙人の 5 名連記とする。投票は郵送または電子媒体等を用いて

行う。」理事選挙規程 ※2022.08.25 改定)。会員各位におかれましては遺漏なく投票くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

なお、オンラインによる投票期間は 2023 年 6 月 1 日 (木) より 14 日 (水) 12:00 まで、郵送による投票期間は 2023 年 6 月 14 日 (水) 必着です。

<お問い合わせ先>

日本インターンシップ学会選挙管理委員会

TEL : 03-5981-9824 / FAX : 03-5981-9852

E-mail : g035jsi-support@ml.gakkai.ne.jp

(選挙管理委員長 手嶋 慎介・愛知東邦大学)

支部活動報告

【北海道支部】

北海道支部では、例年 3 月に行われていた支部総会を、学会年度に合わせて柔軟に対応できるよう 6 月に変更することを予定しております。したがって、2022 年度の総会につきましては、6 月中旬に開催することを予定しております。

総会に合わせて、研究会を開催し、会員からの研究発表を行いたいと考えております。また、フロアとのディスカッションの時間を設け、大学・企業の今年度のインターンシップの変化について議論したいと考えております。インターンシップに関わる三省合意の大幅な改定は、大学におけるインターンシップのあり方にも大きな一石を投じようとしています。大学が主体となって行ってきた単位付与型のインターンシップの形も変化を求められており、多くの大学・キャリアセンターが対応に追われているのではないのでしょうか。研究会では、各大学の状況などについて、状況の整理と今後の展開について議論を行います。

現在のところ、総会は zoom を用いた遠隔会議方式で実施の予定です。詳細につきましては、メールマガジン等で告知させていただきます。

(北海道支部支部長 小林 純・札幌国際大学短期大学部)

【東日本支部】

2022 年度 第 2 回支部研究会

第 2 回支部研究会は、3 月 30 日 (木) にオンライン形式 (zoom) で開催いたしました。当日は全国から 28 名の参加がありました。

第 2 回研究会は、支部運営委員の二上武生会員 (工学院大学 教授) が第 1 回研究会に引き続きコーディネーターとなり、前回の振り返りと具体的な研究の設計および効果検証の方法についての問題提起がありました。その後、パネリストの山本美奈子会員 (山形大学 准教授) から、コーディネーターから問題提起のあった内容について説明いただき、その後ディスカッションおよび質疑応答を行いました。

参加者アンケートの満足度も高く、これからの研究を見直すことができ、学びの多い研究会であった

との感想をいただきました。また、他の分野の先生方の実践研究についてお話をお聞きしたいというコメントやインターンシップの制度変更に関する問題や海外インターンシップなどもテーマとして扱ってほしいとの要望をいただきました。

2022 年度第 3 回支部研究会および支部総会について

第 3 回研究会は、6 月 3 日 (土) に目白大学を会場とした対面とオンラインのハイブリット形式にて、第 1 回、2 回の研究会の内容についてまとめを行う予定です。併せて支部研究会終了後に支部総会を開催する予定です。今後詳細が決まり次第、会員の皆様にご案内をさせていただきます。

(東日本支部 支部長 松坂 暢浩・山形大学)

【関西支部】

関西支部第 17 回研究会を開催しました

関西支部は、2022 年 12 月 16 日 (金) にキャンパスポート大阪で支部研究会を開催しました (共催者: 大学コンソーシアム大阪のご協力を得て、対面とオンラインのハイブリッド形式)。最初に、和歌山大学大学院教育学研究科 教授の岡崎 裕 氏が『『大学生期における消費者教育推進事業』の大学横断的な取り組み ～大阪府消費者センターや大学コンソーシアムと連携して～』を報告されました。大阪府消費生活センターが 2016 年度より始めた標記事業に協力し、同世代や年下の若者等に対する消費者教育の担い手となる「大阪府消費者教育学生リーダー」の育成に大学横断的に取り組まれた活動の中間報告です。2019 年度から和歌山大学の授業「消費者市民と社会」との連携を開始し、南大阪地域大学コンソーシアム (会員 8 大学など) の単位互換制度を活用して他大学の学生にも授業を提供し始めました。2022 年度から、単位互換の範囲を大学コンソーシアム大阪 (39 大学が単位互換に参加) にも拡大し、大阪府内の主な大学の学生が受講できる体制となりました。受講学生が成長した姿を動画でみることでできたほか、大阪府消費生活センターや南大阪地域大学コンソーシアム関係者の出席も得て、有意義な報告会となりました。

次に、第 24 回大会開催校: 追手門学院大学の伊藤文男 会員 (大会実行委員長) がコーディネーターを務めるシンポジウム「これまでのインターンシップを振り返り、これからのインターンシップを考える ～企業、中間支援組織、それぞれの立場から～」が開催されました。パネリストとして、株式会社スーパー・コート (関西の有料老人ホームチェーン) の良川 朋美 氏と、大学コンソーシアム大阪の西本 聡子 氏・山田 庸子 氏をお迎えし、それぞれのお立場から、インターンシップへのお取り組み状況や実施のメリット (考える機会の提供等)、ご苦労などを伺いました。

報告後の交流会では、関西圏外からの参加者も含めて、有意義な意見交換が行われました。

(関西支部長 安孫子勇一・近畿大学)

【九州支部】

第 28 回九州支部研究会報告

2022 年度第 1 回（通算第 28 回）九州支部研究会を 2023 年 2 月 4 日に久留米大学福岡サテライトキャンパスにおいて対面とオンライン（Zoom）の併用で開催しました。今回の研究会は「実践型」として、テーマを『地域の人材育成コーディネーターからみるインターンシップ』と題し、仲介組織に所属する坂田美和子会員（九州インターンシップ推進協議会・事務局長）に司会を担当いただき、前半は九州で地域人材育成にコーディネーターとして活躍する 3 名のパネリストからの事例報告をいただきました。

第 1 報告は、岡野涼子氏（一般社団法人 NINAU・代表理事）から「実践型長期インターンシップの効果について」として、過疎地域の日田市の未来を担う（になう=NINAU）地域人材育成について大学生が 1 週間の滞在型インターンシップで街を活性化する企画・運営のコーディネート力を向上させるプログラムについて報告いただきました。導入と終わりのミーティングが介入のポイントであることなど具体的な運営内容についても説明いただきました。

第 2 報告は、土屋望生氏（株式会社日添・取締役）から「限界集落におけるインターンシップの可能性」について九州で一番人口が少ない村である五木村での滞在型インターンシップでの地域人材育成の取り組みについて発表いただきました。将来的に五木村で働くことを選択したり事業に協力したりしてくれる地域人材育成を目標に、地域と人をつなぐ短期（1 か月、無償）と長期（3 か月以上、有償）のミッション型インターンシップについて説明いただきました。

第 3 報告の濱本伸司会員（一般社団法人フミダス・代表理事）からは「熊本での実践事例から見る地域人材育成コーディネーターの役割」について、大学、企業、商工会議所の三者が win-win となる仕組みづくりとコーディネート方法について、熊本県で活動するフミダスの事例について報告いただきました。

後半は、コーディネーターに求められる機能とは何かを問い直し、共通性と他分野への汎用性について実践家と研究者との対話から、実践事例（暗黙知）を言語化（形式知）するために、九州支部副支部長の古賀正博会員（九州インターンシップ推進協議会・専務理事）がファシリテーターとして、登壇者とフロア参加者を交えて熱い議論が展開されました。

参加者数は 30 名（会場参加 13 名、オンライン参加 17 名）のうち非会員参加が 12 名でした。



最後に英国からオンライン参加の眞鍋和博支部長（北九州市立大学・教授）からの閉会挨拶でお開きとなりましたが、発表者の情熱ある取組みに参加者相互で地域人材コーディネーターとその仕組みづくりに対する意見交換がその後もしばらく続きました。

第 29 回九州支部研究会報告

2022 年度第 2 回（通算第 29 回）の九州支部研究会は、「研究型」として昨年度取り組み始めた「全国大会へ GO!」を合言葉に『実践』と『研究』との対話—スタートアップ支援研究会(2)—として、2023 年 3 月 27 日に久留米大学福岡サテライトキャンパスにおいて対面とオンライン（Zoom）の併用で開催しました。

司会を担当する江藤 智佐子会員（久留米大学・教授）より、「研究型」の本研究会についての趣旨説明として、研究を始めて間もない会員をサポートする取組みであること、発表者それぞれにコメンテーターが配置され、研究へのアドバイスをを行う形式で開催する旨が説明されました。

1 番目の発表は、2022 年度高良記念研究助成の授賞者である桑畑夏生会員（宮崎大学・講師）より、中間報告として、「選択必修科目における実践型インターンシップ経験による教育効果の検証—宮崎大学地域資源創成学部『国内インターンシップ』の事例をもとに—」について、選択必修科目、教育効果、実践型インターンシップを軸に現段階までの研究成果について報告がなされました。続いて、コメンテーターの平尾元彦会員（山口大学・教授）から、発表内容について論点整理と今後の研究アプローチについて今後研究を進める上での具体的なアドバイスがなされました。

2 番目の発表は、小嶋紀博会員（別府大学・准教授）より「地方創生インターンシップが地元就職に及ぼす影響について—U 市の事例として—」と題し、現在担当している U 市でのインターンシップ科目の取組みに関する報告がなされました。続いてコメンテーターの渡邊和明会員（鹿児島大学・助教）から研究の枠組みや言葉の定義についてなど、研究発表の際の具体的な方法など事例報告としての取りまとめ方について具体的なコメントがなされました。

最後に総括として、吉本圭一会員（滋慶医療科学大学／九州大学名誉教授）より、自校の取組みを研究発表する際に陥りがちな対象を相対化する観点でのアプローチの大切さや、政策用語をそのまま踏襲せず今一度問い直す批判的な思考力の必要性が示唆されました。さらに今後の展開について、実践型の発表者には槓本賞を、研究型を目指す発表者には高良記念研究助成を目指して欲しいとエールが送られました。

参加者からも実践を研究にするためには、「実践型」の用語定義やモチベーションアップのために使われる言葉を研究用語に置き換えることの難しさ、実践を研究につなげるためには何が必要なのか、相互で

意見交換がなされました。

参加者数は20名(会場参加8名、オンライン参加12名)でしたが、小規模な研究会だから質問しやすい雰囲気となり、「共通感覚」の齟齬を再確認する場となりました。



(九州支部副支部長 江藤智佐子・久留米大学)

事務局からのお知らせ

オンライン決済(クレジットカード決済)による会費納入システムの導入について

2023年4月1日より、年会費のオンライン決済が可能となり、年会費をクレジットカードでお支払いいただくことが可能になりました。現在は、2022学会年度を滞納している会員のみが対象となっておりますが、2023年度の会費の納入では、全ての会員が対象となります。

2023年度会費納入のお願い

2023年度(2023年7月から2024年6月)分の会費につきましては、オンライン決済(クレジットカード決済)または口座振込のいずれかの方法で納入ください。また、2022年度会費の納入がまだの会員の皆さまにおかれましては、早めの納入をお願い致します。(大会での研究発表申込は2022年度会費を納入済であることが条件です。)

[オンライン決済]

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/settlement/JSI> より、手順にしたがい、決済ください。

[口座振込]

下記口座にお振込みいただきますようよろしくお願い申し上げます。

[オンライン決済]

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/settlement/JSI> より、手順にしたがい、決済ください。

[口座振込]

下記口座にお振込みいただきますようよろしくお願い申し上げます。

(事務局長 山口 圭介・玉川大学)

【振込先】

・郵便口座 02750-1-108419
口座名義(「加入者名」の欄) 日本インターンシップ学会
・ゆうちょ銀行
店番: 279 (当座)
口座番号108419
口座名義: 日本インターンシップ学会
*恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください。

日本インターンシップ学会 NEWS LETTER 2022 No.2

発行日: 2023(令和5)年5月29日

発行: 日本インターンシップ学会 会長 吉本 圭一

編集・印刷: 日本インターンシップ学会広報委員会 委員長 眞鍋 和博

事務局: 日本インターンシップ学会事務局 事務局長 山口 圭介

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 2-39-2 大住ビル 401

(株)ガリレオ学会業務情報化センター内

日本インターンシップ学会 会員管理事務局

TEL: 03-5981-9824 FAX: 03-5981-9852

e-mail: g035jsi-support@ml.gakkai.ne.jp